

様式第3号

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成26年度 第2回 川西市社会教育委員の会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 社会教育室 (内線 3421)	
開 催 日 時		平成26年5月28日(水)10時00分～11時00分	
開 催 場 所		市庁舎 202会議室	
出 席 者	委 員	生田議長、安藤副議長、田中委員、廣末委員、真鍋委員、岸本委員、西谷委員 計 7名	
	そ の 他		
	事 務 局	森下総務調整室長、上中学校教育室長、柳川社会教育室長、田淵中央図書館長、中定まなび支援室長、中塚こども家庭部長、井口こども・若者政策課長、沼人権推進室長兼人権推進課長、井上社会教育室主幹、西垣(囑託職員) 計10名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数 1名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第		1. 開会 2. 前回会議録の承認 3. 報告事項 (1)阪神北地区社会教育委員協議会第1回理事会の報告について (2)各協議会の会議報告について (3)その他 4. 議題 (1)平成26年度年間研究テーマの設定について (2)第2次川西市生涯学習計画策定について 5. その他	
会 議 結 果		別紙のとおり	

審 議 経 過

NO.1

議長	<p>ただ今から、平成26年度の第2回の社会教育委員の会を開会します。なお、末澤委員、岡田委員、米田委員から欠席の連絡が入っています。それでは開会にあたり、教育委員会の方から挨拶をお願いします。</p> <p>(学校教育室長 挨拶)</p>
議長	<p>つづいて市長部局からお願いします。</p> <p>(こども・若者政策課長 挨拶)</p>
議長	<p>それでは、2の項目、「前回の会議録の承認」について</p> <p>(承認)</p>
議長	<p>次に3の項目に入らせて頂きます。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(1)「阪神北地区社会教育委員協議会第1回理事会」について 日時平成26年5月7日 会場川西市中央公民館 協議事項平成26年度役員案、研究テーマ案、事業計画案、予算案及び平成26年度総会について</p>
議長	<p>それでは、続いて(2)の各協議会の会議報告について、各委員でなにかございますか。</p>
B委員	<p>5月17日に川西市生涯学習短期大学レフネックの入学式が行われ、70名の方が入学された。平均年齢は70才位ですが、たいへん意欲的な方達が入学されていました。</p>
議長	<p>(3)のその他に入ります。報告事項で前回報告しました映画「じんじん」について、社会教育委員の会の分としてチケットを預かっているので、必要な分がありましたら、私の方までお願いします。</p> <p>それでは、4の議題に入らせて頂きます。まず(1)の平成26年度社会教育委員の会の年間研究テーマ設定についてです。過去5、6年間は阪神北地区のテーマに即した形で、年間研究テーマを決めています。本年度は次の(2)の項目にあります。事務局の方から諮問という訳ではないが、論議をして欲しいという話を聞いています。それに、時間を取るのではないかと思いますので、テーマ設定に時間を取る必要はないと思います。ついては、議長提案として26年度の阪神北と同じテーマ「地域・家庭・学校をつなぐ社会教育のあり方～学びの成果を活かしあう方策を考える～」が良いのではないかと思います。社会教育の全ての課題を含んでいる部分がありますので、その様にさせて頂いたらと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>-----賛同の声あり-----</p>

審 議 経 過

NO.2

議長	<p>では、議長提案のとおりさせて頂き、(2)の項目の方に入らせて頂きます。第2次川西市生涯学習計画策定についてという事で、事務局から説明をよろしくお願いします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">「第2次川西市生涯学習計画の策定について」説明</p> <p>今後の予定としては、7月に意見聴取を行い、その意見を基に修正を加えたものを9月にご提示させて頂く予定です。その際、第1回目での意見聴取の際の漏れやあらためて気づかれた事につきまして再度意見聴取をし、11月に再修正案を提示させて頂いた後、議員協議会及びパブリックコメントの方にあげていきたいと思っていますので、よろしくごお願い致します。</p>
議長	<p>今、事務局から説明がありました様に、充分読み込んで頂いて、意見や修正の部分などがありましたら、7月の会で論議して頂きます。ほか、説明にあったことで質問や意見がありましたらお願いします。</p>
E委員	<p>第1次の計画は、ホームページで発信されていましたが、</p>
事務局	<p>ホームページ上には掲載しておりません。</p>
E委員	<p>市としての考えをしっかりと発信をし、それに対してそれを見る人と双方向の意見交換ができると考えていますので質問させていただきました。私の思いは生涯学習というのは何かと問われた時に、皆がすぐ答えられますかという事なのです。簡単に言えば、生まれてから死ぬまでの教育、もしくは教育環境作りという様な事なのです。いつでも、どこでも、だれでもが受けられる教育を目指す訳ですが、ライフステージに応じた計画に基づいて教育をしていかなければならないという視点をしっかりと据えてもらわないと、いい加減な生活をしながらもいつでも教育に戻れるというような考えの人達を育てない様にしないといけないと思っています。その意味で素案を見ていますと、ライフステージに応じてという考え方が出ていますし、家庭教育、子育て支援から学校教育、社会教育も入っていますので、大変柱がしっかりしていると思います。</p>
G委員	<p>話を聞いて、難しいというのが正直なところです。この第1次計画の平成15年の時に初めて小学校のPTA会長をさせて頂いたのですが、この時の大人と今の大人ではすごく違っている。それは若い保護者の方に関してですが、それをとても感じるので、この時と同じ様な形ではないだろうと思います。</p>
D委員	<p>学校の色々な事でもそうですが、考えて枠組みを作っていきますが、それが本当に必要とされているのか、活かされているのかといつも疑問に思うところがある。現場や市民がどういうものを求めているか、本当に利用できるのかということをもっと大事にしていかなないと、お金を使って、色々な行事などをされても、本当に活かされていなければもったいないと思う事がよくあるので、市民に直接関わる様な形になればと思います。</p>
H委員	<p>孤立化ということをよく言われますが、社会に自分が参画できる様な場があるということが大切だと思います。川西市でも色々な施設を宣伝していこうとしていますので、そういうものについて</p>

審 議 経 過

NO.3

	<p>でも触れ合える様な条件整備が必要で、また充実させていく事も必要、やはり地域の皆が出やすい様な場を作る事が必要だろうと思います。最近では自治会を組織するのが難しいとか、コミュニティで行事をしてもなかなか集まらないなど難しい状況が続いています。学校では文化祭をやるなどしてそういう場を提供しており、協力ができるのではないかと思います。そういう場に子どもが入って来ると、非常に参加しやすいという部分があり、子どもを介して大人同士の繋がりも広がっていく事もあります。ただ、孤立してなかなか見えない部分もあり、そういう部分に如何に目を向けて行くかということも必要で、その辺りに焦点を当てる様にしていける事も必要ではないかと思います。</p>
I委員	<p>学校でよく学力と言われる時は、単に数値で表れる学力だけで、この生涯学習の観点では、その学力というのはやはり学び続ける力だと思います。ところが、現在の学校教育での学びは、学び続けるというのではなく、何かを得るための手段で学んでいるというのが状況です。だから、今の学校教育というのは、得てしまえば学びは止まってしまう。学びが全ての点で手段に陥っている部分があり、学び自身が本来の目的になるような、学び続ける力というのは生涯学習でつけていけないといけないと思います。その部分でレフネックの短期大学の方は非常に素晴らしいと思いますし、川西市はそういう施策を持っているという事は、非常に素晴らしい事だと思います。</p>
B委員	<p>レフネックにいられている方は生きがいを見いだす為に来られている様に思われます。14頁に書かれている「生きがいを見いだす学習活動の支援」という、そのような所を応援したいのと、郷土愛を育てる様なものが出せたら良いなと思いました。</p>
議長	<p>定年退職後の皆さん方などが、自分の為に学んでいらっしゃる部分は良いのですが、これを地域社会の中で活かす場面やその仕組みを誰が作っていくのかという事なのです。埋もれていらっしゃる方を繋ぐシステムというものが、生涯学習ということで、学校の支援にも人権のラインにも繋がって来る。それで地域づくり、町づくりという視点の部分で何か具体的な形でできたらと思います。</p>
D委員	<p>私もこういう機会がないとこういう資料を見せて頂く事もなく、ホームページもなかなか覗けていないのですが、一般の方々に広がる、伝わるものであって欲しいと思います。</p>
G委員	<p>12頁の所で、防災やごみ減量のことや学習会のことなどがあるのですが、これは社会教育室と違う部署の所管だと思うのですが、そこも全部関わって、やっていくという事なのですか。</p>
事務局	<p>第1次計画の際には教育委員会内の部署でやっていたのですが、この10年の間に市長部局に移った部分につきましては第2次の方に引き継ぐ形でやっていきたいという事を入れていきます。</p>
G委員	<p>具体的な所まで審議するという事になるのですか。</p>
事務局	<p>具体的な部分につきましては、なかなかこの計画の中では難しいところがありますので、それは10年の間に、できるだけ前向きな方向でやっていくという意味合いで、留めさせて頂く様</p>

審 議 経 過

NO.4

	<p>な形になるかと思えます。</p>
G委員	<p>高齢者の部分ですが、レフネックなどで学ばれている方もいますが、一方には介護などの支援を受けている方で外に学びに行きたいという方もいるように、高齢者の層がすごく細分化されて、厚くなっていると思いますが、その部分に関して、ある程度自分で自分の事ができるという方だけを捉えた高齢期というふうに考えたら良いのですか。</p>
事務局	<p>基本的には、それだけではないという思いですが、なかなかそこまで踏み込んだ状況にはなっていないのが現状です。</p>
E委員	<p>名前の問題もあるかと思うが、生涯学習というと学校を出てからの高齢者の学習というふうに通じをされるのではないかという気がしてしかたがないので、ライフステージ全てにわたる教育が生涯学習なのだという概念を市民に持って頂くことが大事だと思います。議長が言われた学んだ事を地域で活かす様な仕組みをどのようにするのか、その繋ぎのシステム作りをどうするのかという、そこが欠けている。我々がそれを具体化していくためには、どこがリーダーシップを取るのかという事になると、それは学校や公的機関だろうと思います。子どものライフステージとともに親もそこで関わった人とずっと繋がっている。皆が繋がる訳ではないですが、そういう繋がり場を与えてくれているのが学校をはじめとした公的機関なのです。その繋がり場が一生継続していくと、もっと活性化するのではないかなという気がします。繋がる様な場を設定するのが生涯学習のシステムづくりになるのではないかと思います。</p>
議長	<p>G委員が言われました様に、具体的に一つひとつ部分については一部署だけでできる話ではないと感じています。いかに繋げていくかという事で、全市的に取り組んでいくことになるかと思えます。ただ、机上のプランで終わってはいけません。それでは、この資料を次の7月の時に論議をしていくという事で進めさせて頂いてよろしいですか。</p> <p>5のその他に入る前に、こども家庭部長がお見えになりましたので、一言お願いします。</p>
こども家庭部長	<p>(こども家庭部長 挨拶)</p>
議長	<p>5のその他の所で事務局から連絡事項ありましたらお願いします。</p>
事務局	<p>次回の社会教育委員の会について 日時平成26年7月23日(水)午前10時から 会場市庁舎202会議室にて</p>
議長	<p>以上を持ちまして、第2回の社会教育委員の会を終わらせて頂きます。</p>